

中学校【技術・家庭科】 「主体的・対話的で深い学び」の手引き

飛騨教育事務所

1 技術・家庭科における「主体的・対話的で深い学び」のとらえ

「主体的な学び」 ・・・	現在及び将来を見据えて、生活や社会の中から問題を見いだし課題を設定し、見通しをもって解決に取り組むとともに、学習の過程を振り返って実践を評価・改善して、新たな課題に主体的に取り組む態度を育む学び
「対話的な学び」 ・・・	他者と対話したり協働したりする中で、自らの考えを明確にしたり、広げ深めたりする学び（技術分野では、例えば、直接、他者との協働を伴わなくとも、既製品の分解等の活動を通してその技術の開発者が設計に込めた意図を読み取るといったことなども対話的な学びである。）
「深い学び」 ・・・	生徒が生活や社会の中から問題を見い出して課題を設定し、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価・改善といった一連の学習活動の中で、生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら課題の解決に向けて自分の考えを構想したり、表現したりして、資質・能力を獲得する学び

- 生活の営みに係る見方・考え方・・・ 家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造できるよう、よりよい生活を営むために工夫すること
- 技術の見方・考え方・・・・・・・・ 生活や社会における事象を、技術との関わり方の視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性などに着目して技術を最適化すること

2 「主体的・対話的で深い学び」の例

つかむ	- 生活や社会の中から問題を見いだし、課題を明らかにする。 - 解決に向けて、どのような順序や方法で追究すればよいか見通しをもつ。	生徒が生活や社会の中から問題を見い出して課題を設定し、その解決に向けての見通しをもつ。 【主体的な学び】 - 自分の生活や、社会で利用されている技術を見つめる場を位置付け、生活や社会の中から問題を見いだし、改善に向けて具体的な課題を設定できるようにする。 - 知識及び技能の習得を図る学習では、具体物を用いた資料提示や憧れをもてるような示範を行い、生徒の追究意欲を引き出す。 - 生徒が考えた追究方法を認め、価値付け、生徒が安心して課題追究を行えるようにする。 - 願いがあってもやり方が分からず困ってしまうことがないように、教えるべきことは教え、生徒が追究の見通しをもてるようにする。
深める	- 実践的・体験的な活動（製作、制作、育成、調理等の実習や、観察・実験、見学、調査・研究など）を通して追究する。 - 仲間との交流を通して、考えを広げ深める。 - 交流したことを基にさらに追究する。	生徒が生活の営みに係る見方・考え方や技術の見方・考え方を働かせながら、試行錯誤したり、仲間と交流したりして課題を追究する。 【主体的な学び】 - 画一的な追究方法を提示するのではなく、様々な方法で追究できるよう教材や学習環境を充実させたり、複数の追究方法から選択して取り組んだりできるようにする。 【対話的な学び】 - 自分の考えと仲間の考えとの共通点や相違点に目を向けられるように促す。その際、ペアやグループ等の活動において、考えを集約・分類するなど、互いの考えを可視化し、比較できるように学習環境を工夫する。 【深い学び】 - 課題解決に向けて収集した情報を、「（技術分野）社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性など」「（家庭分野）協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から多面的に分析・考察するよう促す。その際、既習事項や生活経験などに関連付けて考えられるように指導する。
まとめる	- 自己の変容を振り返り、実践の見通しをもつ。 - 次の学習の見通しをもつ。	生徒が自分の生活が家庭や地域と深く関わっていることを認識したり、自分の成長（学び）を自覚し、実践する喜びに気付いたりする。 【深い学び】【主体的な学び】 「〇〇はさらに改善（工夫）できないかな？」「〇〇できなかった原因は何だろう？」などと問いかけ、振り返りから新たな課題を引き出す。 - 学習したことを、「（技術分野）社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性など」「（家庭分野）協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等」の視点から評価・改善することができるように、まとめの視点を明らかにする。また、家庭分野では、「いつ、どんな場面で、どのように実践できそうかな？」と問い、家庭実践つなぐために必要なことを考えることができるようにする。